



夏風邪に注意しましょう！



手足口病・ヘルパンギーナが増える時期です

6月の後半から、手足口病やヘルパンギーナ、のどの痛みや発熱を伴う夏風邪が増えてきます。どれも感染力が強く、保育園で広がりやすいため、早めの気づきとケアが大切です。

どんな病気？

手足口病

手のひら・足の裏・口の中、おしりなどに赤い発疹や水ぼうがができます。熱が出ることもありますが、比較的軽いことが多いです。

口の中の痛み



手・足・おしりの発疹



ヘルパンギーナ

突然の高熱とのどの痛みが特徴です。のどの奥に白い水ぼうがで、痛みで食事や水分が取りにくくなります。

のどの痛み・高熱



咽頭結膜熱（プール熱）

高熱とのどの痛み、目の充血やまぶたの裏の赤みが特徴です。目やにや涙が多くなることもあります。

高熱・のどの痛み



目の充血

よくある症状

発熱 ・ のどの痛み ・ 発疹、水疱 ・ 食欲低下 ・ 機嫌が悪い、ぐったり

登園について（目安）



咽頭結膜熱の場合、**症状が消失してから2日経過**するまで出席停止です。医師の判断・許可のもと、登園をしてください。

他の病気の場合も、次の3つの条件を満たしてから登園をお願いします。



解熱していること



熱が下がってから、24時間以上たっていること



食事や水分がいつも通りとれること



痛みが落ち着き、普段通りに食事や水分がとれること



普段通り遊べること



機嫌が良く、ぐったりせずいつも通りに遊べること。

水痘（みずぼうそう）が流行しています

症状

発熱ともに赤い発疹が現れ、水ぶくれとなり、かさぶたになるという経過をたどります。

出席停止について

「**すべての発疹がかさぶたになるまで**」は登園・登校できません。

お願い

体に発疹を見つけたら、医療機関を受診してください！